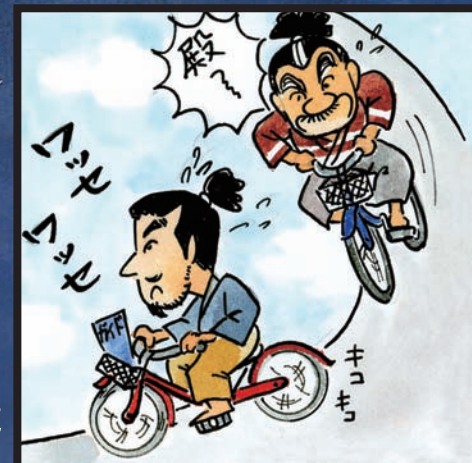
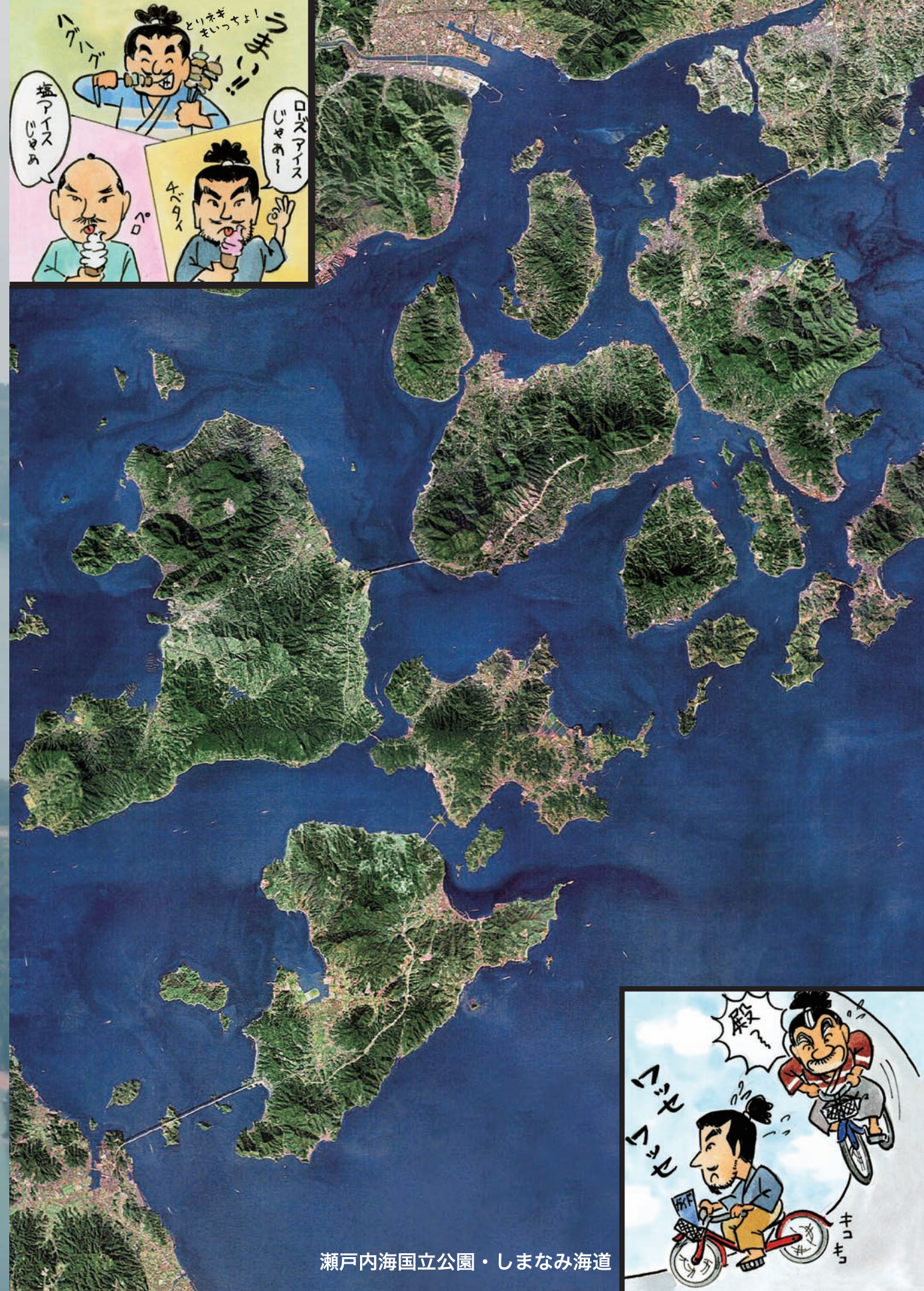


# 海の戦国大名

- 村上武吉物語 -







室町時代の後半頃になると、その当時瀬戸内海を支配していた村上水軍は、その支配力をより強めるため、瀬戸内海を完全封鎖しようとし、封鎖するとなると、「しまなみ海道」に橋を架けやすかったように、芸予諸島は理想的です。村上水軍が三人の息子たちをそれぞれ「来島海峡」「宮窪能島」「因島」に配置することにより、瀬戸内海の完全支配が実現しました。



しまなみ海道沿線で暮らす人たちは、今も昔も同じ穏やかな環境の中で、漁業や塩づくり、小さな土地で農業などをして暮らしてきました。この優しい自然環境、風土が瀬戸内海に暮らす人々のんびりとした優しい人柄を育ててきたのでしょう。また、陸の人たちとくらべて、船をあやつる技術や潮、風を読み、海で生きてゆく能力の高い人たちがたくさんいたと考えられます。そのことがその時々権力者に必要とされ、瀬戸内の人たちを争いにまきこんでゆく原因にもなりました。



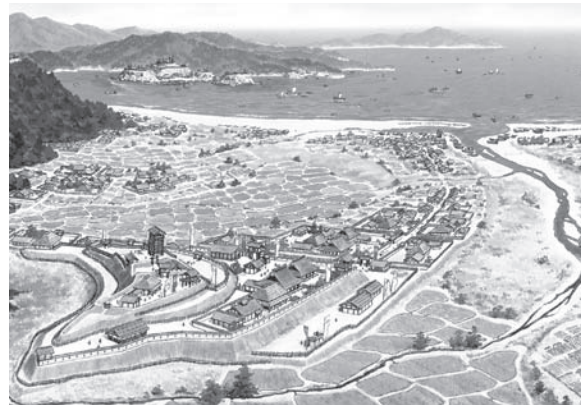
来島城 (推定復元図)

来島村上氏の居城で、上部に見える波方の入江まで最短わずか 260m ですが、あまりにも潮の流れが速く、簡単には島に攻め入ることはできませんでした。島内で水が得られることから、城主の館も造られていました。



因島青木城 (推定復元図)

青木城は戦国後期の因島村上氏、本拠の城です。現在は陸中の山ですが、当時は周囲に海が入り込んでいたといわれます。能島城や来島城と比べると、水軍城らしくないに見えますが、このように海をのぞむ場所の山城も当時の水軍城にはたくさんありました。



宮窪城 (推定復元図)

村上武吉らが日常生活をおくっていたとされています。現在の宮窪の街があるところの南側の丘のあたりといわれています。



能島城 (推定復元図)

能島村上氏の本城で、極めて潮流の速い海峡に浮かぶ海の要塞でした。島全体が棧橋と防御施設をかねた棧敷で囲まれていたと考えられ、現在もその名残は島の周辺に多く見られます。



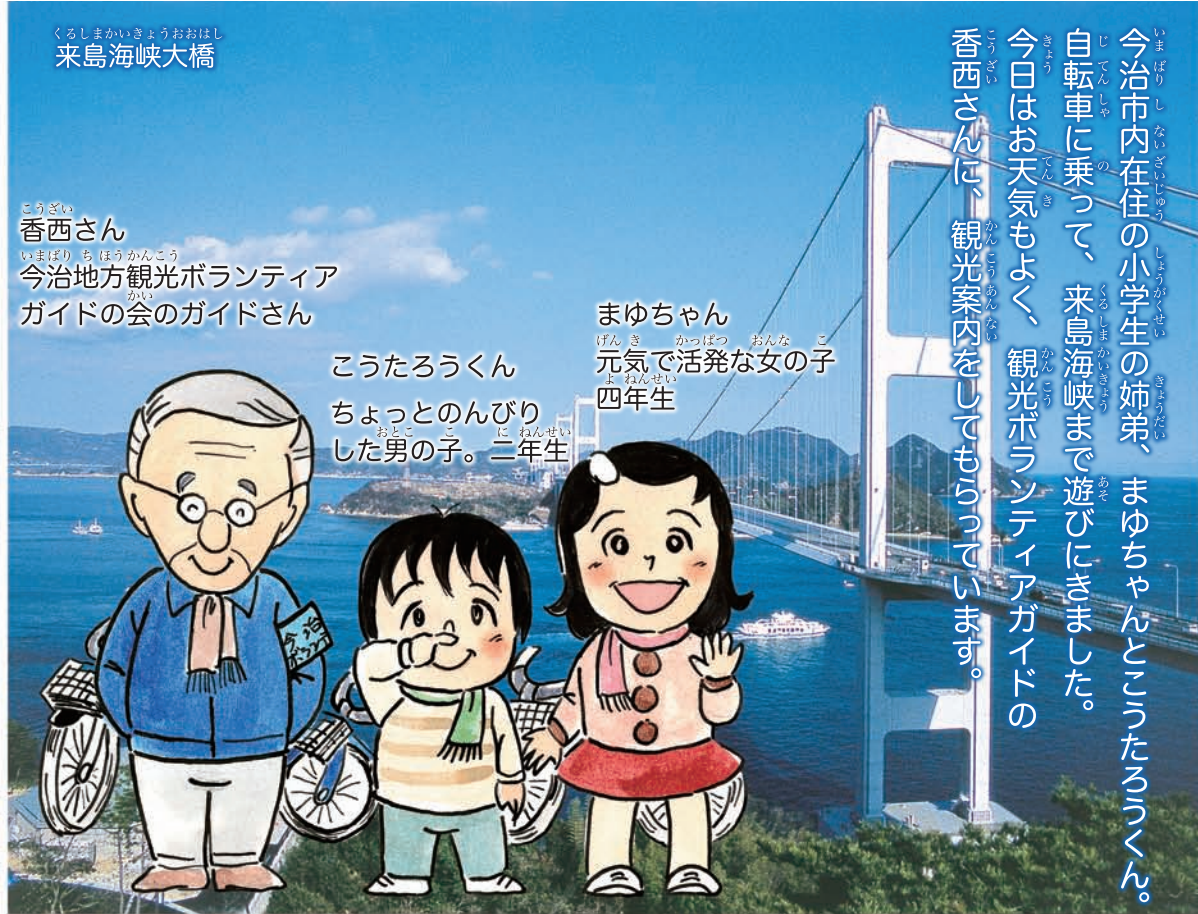
中世以前では、水難事故にあい、沈没してしまった船の積み荷は流れ着いた港のもので、皆で分け合うという習慣がありました。事故の原因がわかりにくい時代ですし、積み荷を渡すかわりに、人命救助を促すという意味もあったと思われます。しかし、そのことを悪用して、海賊行為を行う者もいました。また古くから瀬戸内の航海の安全のために水先案内をしていた人たちもいました。そうした人たちがしだいに集まり、組織化されて海賊衆とよばれるようになったと考えられています。



瀬戸内海は古くから、貿易はもちろん物資、人の運搬のもっとも重要な国家の大動脈でした。中央の政権もその時々において、支配を強めようとしたり、協力を求めてきたりと、瀬戸内海の利権を手に入れようとし、中央の政権が発達するにつれ、瀬戸内海の物流はますます増え、それに伴い瀬戸内の組織もしだいに大きく強力になっていきます。

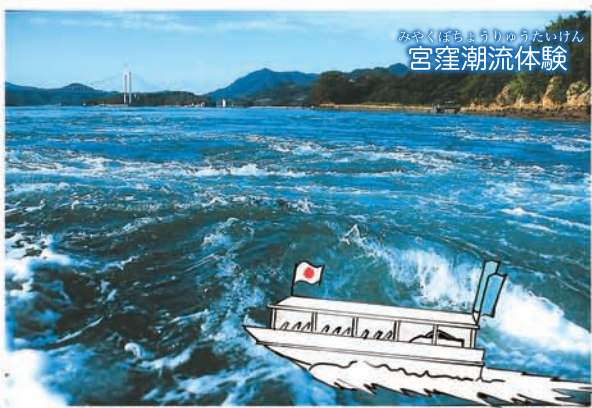
「香川元太郎画：今治市村上水軍博物館提供」





今治市内在住の小学生の姉弟、まゆちゃんとこうたろうくん。自転車で乗って、来島海峡まで遊びにきました。今日はお天気もよく、観光ボランティアガイドの香西さんに、観光案内をしてもらっています。

今治地方観光ボランティアガイドの会  
今治在住の有志で構成されている観光ガイドのグループです。しまなみに観光に訪れた人々に無料観光のご案内をしています。お立ち寄りの際はお気軽にお声をおかけください。  
(お問合せ) 0898-220909



村上 景親  
武吉の次男。武吉、元吉の死後、毛利家舟手組として能島村上家を守る。



村上 元吉  
武吉の長男。関ヶ原の時伊予での戦いで討ち死に。



村上 武吉  
本編の主人公。戦国時代の瀬戸内海でもっとも活躍した村上水軍の総大将。



村上 吉充  
因島村上氏



村上 通総 (来島)  
通康の子。三島村上を離れ秀吉側につく。来島家は三島村上で唯一、江戸期も大名として残る。



村上 通康  
来島村上家の覚首。伊予の大名、河野家の重臣。



村上 隆重  
武吉の叔父で後見人。生涯、武吉を助ける。



陶 晴賢  
元々大内氏の家臣であったが、主人を倒し中国地方の大大名となる。厳島合戦で毛利・村上軍に敗れる。



大内 義隆  
戦国時代の中国地方の大大名。家臣の陶に討ち果たされる。



大友 宗麟  
九州豊後(大分県)の戦国大名。



毛利 元就  
戦国時代に中国地方ほぼ全土を制圧した西日本一の大大名。



浦 宗勝  
武吉の母方の叔父で、小早川家の重臣。



小早川 隆景  
戦国時代後期の中国地方の大大名。三島村上には友好的。毛利元就の子。



豊臣 秀吉  
信長のあとを継いで、天下統一を果たす。その後村上水軍を利用して朝鮮へと攻め入るが失敗する。

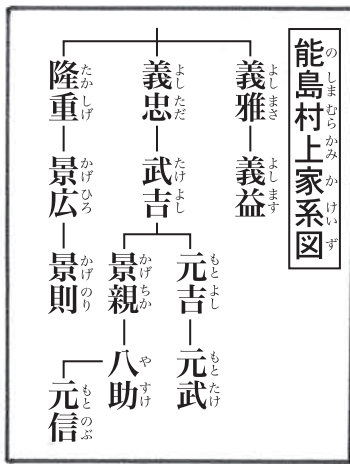


織田 信長  
戦国時代、革新的な手法で天下統一目前となるが、最後は家来に裏切られる。



当然 次当主は 義益様だ。

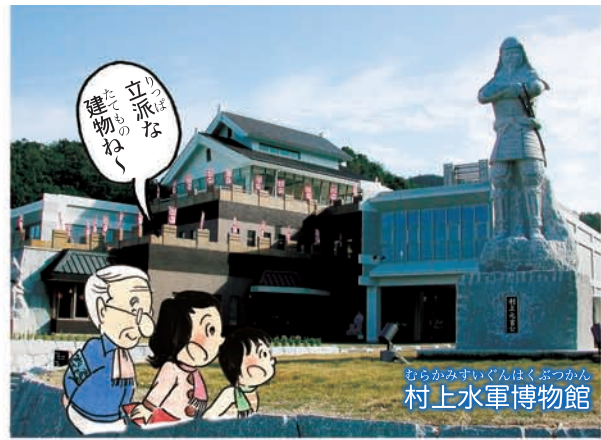
家臣の村上義季は…



6才の時 能島村上家の当主 義雅が病死(33才) 家督争いが始まる

4才の時 父・義忠が 嵐により船が 遭難し死亡

父上…



すっごい渦が まいてたね

次は どこへ 行くの？

水軍博物館へ 行ってみましょ

しかし、義益を支持する 方が強く、道祖次郎に 勝ち目はなかったのです。

されど 道祖次郎は 6才の 童子ぞ！

何を申す、義益殿は12才だが 病弱なうえ、波を怖がる弱虫ときて いる。それに比べて、道祖次郎は 6才にして、たくましく度胸もある。 文句ないではないか。

いやいや 血筋だけで 一族の長を 決めてよい ものか。

武吉派

村上隆重

それじゃあ ほん、あれ に見えるの 能島にいた 武吉という 海賊衆の話 をしましょ うか。

聞き た！

昔瀬戸 内海には 海賊衆が いたんだ。

えっ海賊？



殿!! しっかり なされい 大内が攻め て来ますぞ

義益は…

一方、当主となった

12才 元服

菊池武俊の一字を頂き 名を武吉と改名。

時が 来るまで 待とう

隆重はこっそりと 九州の菊池氏のもとに 道祖次郎を逃がした。

弱虫め 出て行 け!

義益は来島へ 逃れた。

今が チャンスだ 武吉殿を 呼び戻そう

この頃、九州・中国 地方で強い勢力を持つ 大内氏が瀬戸内に 攻めてきました。

元気にすくすくと 育っていった。

ダマ!

おお、元氣な子じゃ。

名を道祖次郎としよう。

村上武吉、天文2年(1533) 村上義忠の子として大島に誕生

ぶぎま





何かおいしそうなもの食べてるよ

ああ、あれは法楽焼だよ

法楽焼とは、法楽鍋に塩を盛り、その上に魚介をのせて卵や椎茸などを揃え、色が付くまでじっくりと焼き上げる豪快な海鮮料理です。

たびたび大内氏が瀬戸内を征服しようとして攻めてきていた。来島も大三島も総力をかけて戦っていた。

何!! 三島水軍の鶴姫が討ち死にされたのだと

大内をこのままにはしておけぬ!

出陣じゃー!!

その夜、暗闇にまぎれて敵の船団にもぐり込み奇襲をかけた。

大内をギャフンと言わせよう

叔父上、わかつております必ずや勝ちます

まず敵船に炮烙を投げ込みすばやく逃げる。

敵、次の船が矢を射る。

こうして次々と大内水軍を爆破して勝利した。

ほうろくってなに?

炮烙とは火薬を埋め込んだ陶器の爆弾で、固い物に当たると割れて爆発するのです。

そっかー昔の爆弾かあ

よーし皆の者ひけーい

殿、お見事な初陣でした

わしの目に狂いはなかった。能島の当主にふさわしいお方である

戦勝祝いのお宴

カバイ

殿、毛利家より使者が参られました。

この度小早川家の跡を継いで頂く毛利徳寿丸様です。ごあいさつに伺いました。

のちの小早川隆景

またお願いしたいことがあります。

今後陶晴賢ともめ事があった時には、ぜひ毛利家に協力していただきたい。

承知いたしました

天文20年(1551)ある日...

おや、あの船は何だ?

通行料も払わず通る過ぎてゆござ

ふん、この海坊主どもが。欲しければ力ずくで取ってみろ

料を払わぬか

横暴な態度に怒った関所の役人との間で死人が出るような争いごとがありました。

どうして通行料がいらぬの?

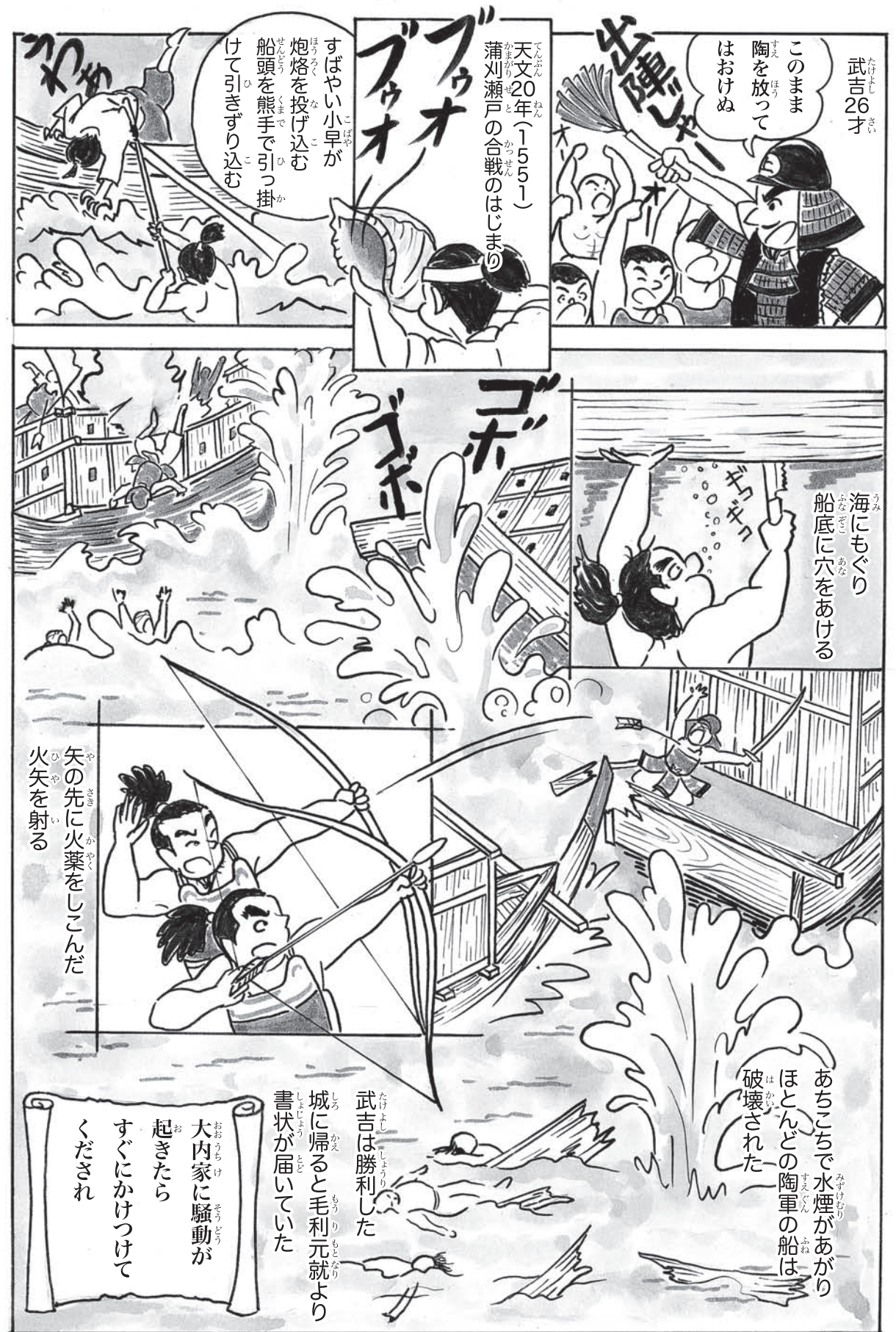
瀬戸内の複雑な海を船が安全に通れるように、村上水軍は通行料をもらって守る仕事をしていたので、(水先案内)なるほど

あれはこの船だ

陶の船じゃあ

※この時、陶氏は大内氏の有力な家臣で、毛利氏は広島山内郡の小大名、事実上大内氏の属国であった。







殿、そろそろ身を固められてはいかがでしょう？  
良き姫様がおりまするぞ。

ほう、だれじゃろう？

こんにちは  
お久しぶりにございます。  
ある日、来島の通康が娘の鷹姫を連れてやってきた。

しばらく見ぬ間に美しくなられたのお

話はトントン拍子に決まりめでたく結婚となった。  
4ハ4

キヤツ 武吉さんうれしそう

しかしその間にも、瀬戸内の海には次々と関所ができていた。  
そんなある日...

三島村上!!  
航行税の徴収を禁止する!  
すえすえ

我慢にすえかねていた時、毛利元就より密書が届いた。  
武吉殿、お怒りはごもつともじやが、陶には必ず天罰が下る。  
その時まで我慢なされよ。

この頃、中国地方では大内、陶、毛利が領地争いで戦っていました。

天文22年(1553)  
武吉に長男誕生  
ふんぞりや

まあ、何て大きな声でしよう。元氣なお子じや。

でかしたぞ、鷹。名を少輔太郎としよう。

天文23年(1554)  
殿、毛利殿より密書です。

大義により兵をあげ、逆賊・陶晴賢を討ち果たす

元就の行動は早かった。  
5月中旬には、陶の支配する4つの城を落とし、厳島も占領して宮尾城を築いた。

天文から弘治に変わったある日...  
小早川様の使者がお見えになりました。

浦宗勝だ  
宗勝は武吉の母の弟で、叔父になる。

噂どおりご立派になりましたな  
叔父上 お久しゆ  
十年ぶりの再会であった。

武吉殿、陶との戦には必ず勝ちます。どうかお味方願いたい。

しかし一存では決められませぬ。  
因島・来島・大三島衆と話し合い、返答したい。

三島村上水軍の力を借りれば一日で決着できましよう。  
一日だけ、船を貸してください。

数日後—  
陶氏より使者がやってきた。

無断で関を築いたりして、申し訳なかったのう。  
だが、毛利との戦に勝てば瀬戸内から長門九州対馬までの海を与えようぞ。

陶の言うことは信用できん

陶氏は大内軍のもと、強大な水軍を保有していたが、まだまだ小大名の毛利氏にとって陶氏との戦には、村上水軍の協力がとつても必要であった。





出陣



皆の者!!  
よく聞け、これは殿のお言葉じゃ。  
村上水軍は毛利の手助けはしても  
決して家来にはならぬ。  
みんな、一族の誇りを持って戦って  
くれ!!



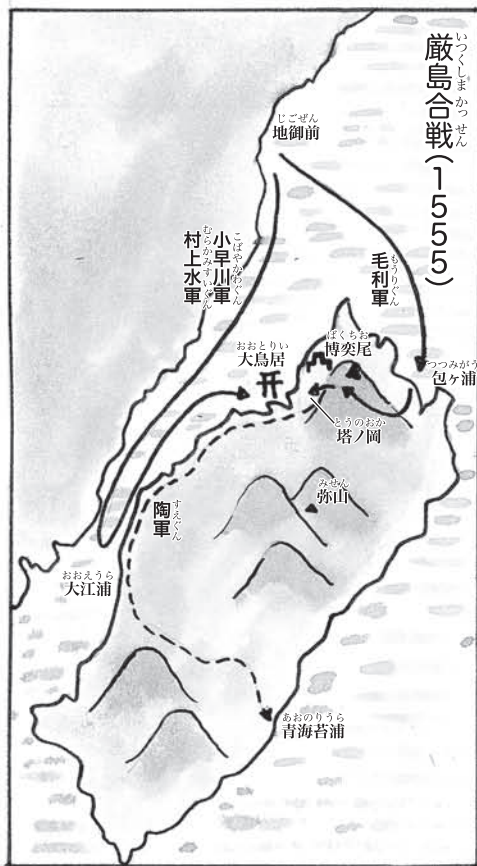
よもや、この激しい風雨の中  
敵が進撃してくる  
とは思ってない。  
勝ち戦じゃ。



ますます激し  
くなる暴風雨  
の中、毛利軍は  
陶軍の背後の  
山・博奕尾を  
目指した。  
兵の立てる物  
音はすべて激  
しい風雨が消  
し去った。



嵐が来るな...いよいよ今宵じゃ。



厳島合戦(1555)



雨がやみ...  
波がおだやかになり...  
雲の切れ間から  
半月のぞいた。



まだ深い眠りの中にいた陶軍に  
突如起こった  
鉦と太鼓と  
法螺貝と  
時の声



陶へ使者に  
発つてくれるか。  
お味方いたすと  
申し上げるの  
だ。  
殿!!  
今何と...

毛利が厳島を占領して  
2ヶ月が過ぎたある日...



この後も双方  
たびたびやってくる。  
武吉の返事を待った。  
武吉はどう  
するのかなあ



びびり  
したなあ  
もう  
おお  
そうでありましたか



隆重...  
そちまづだましてすまぬ。  
これは陶を誘い出す策だ。



と...  
殿...  
お気は確か  
ですか...



武吉にとって  
大きな決断  
でした。



殿、来島と因島を  
呼びましようぞ。  
小早川家の宗勝殿  
にも急ぎ正式な使者  
を出しましょう。



我が軍が味方になると言えば、  
陶も安心して厳島上陸を決意  
するだろう。  
それが狙いよ。



留守番じゃ  
わしは動かぬ  
留守番じゃ

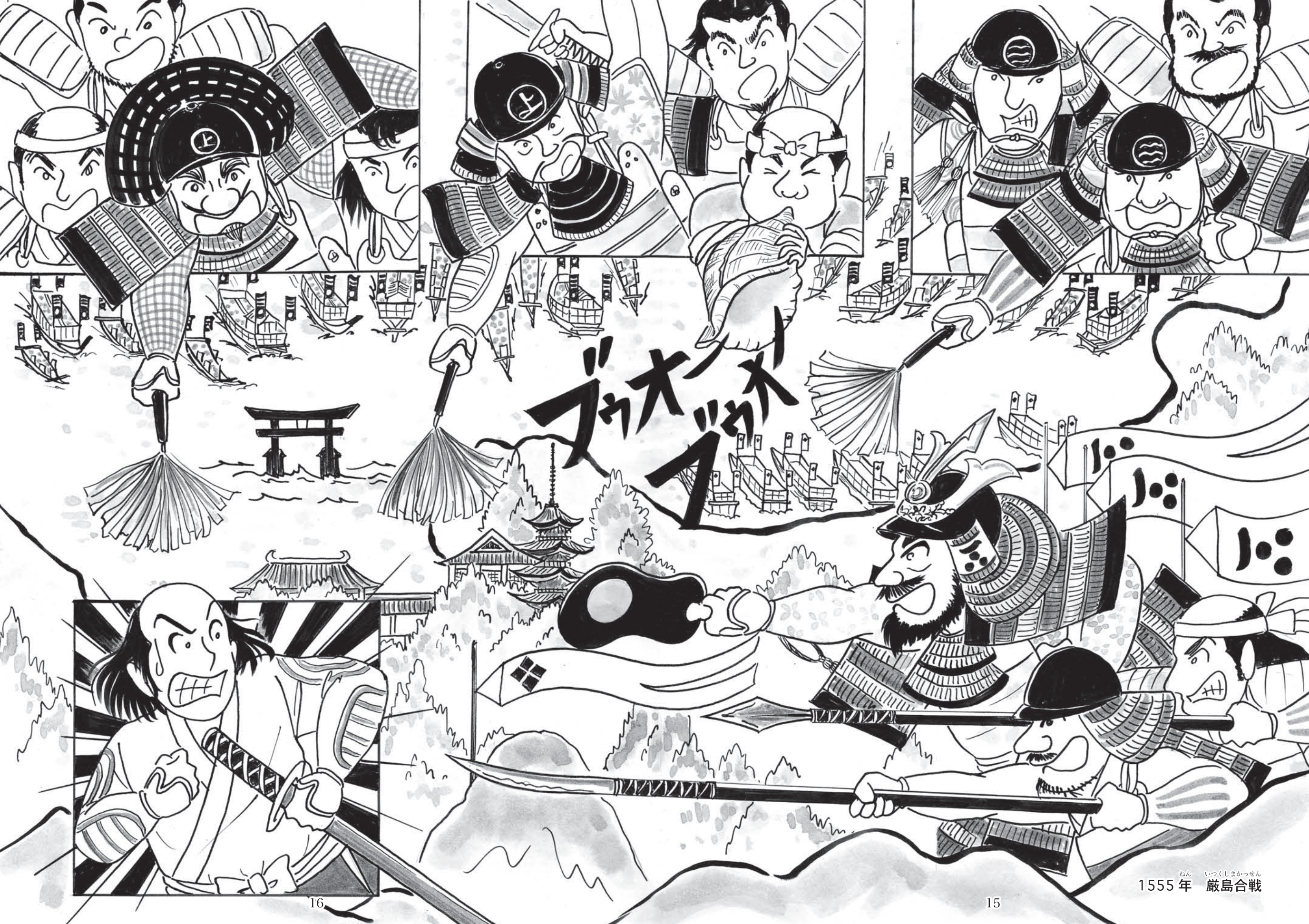


総大将は  
吉充殿、  
副将は  
隆重として  
出陣せよ



弘治元年(1555)9月  
陶軍厳島に上陸  
武吉、  
はよう出陣  
して味方せよ





木下大佐





毛利軍の大勝利



もはやこれまで  
陶晴賢没 35才



陶軍は総崩れとなり、船で逃げようと海岸沿いに逃げたが、逃げ切れずついに浜で自刃した。



武吉め、裏切りおったな!!



弘治3年(1557)全国的には、はしかが流行。また5月以来雨も降らず、大飢饉となる。



こっちは良かったけどこっちは大変ね



武吉にとつてうれしいことは続いた。次男源八郎が誕生。



村上水軍にはほつびとして屋代島が与えられた。



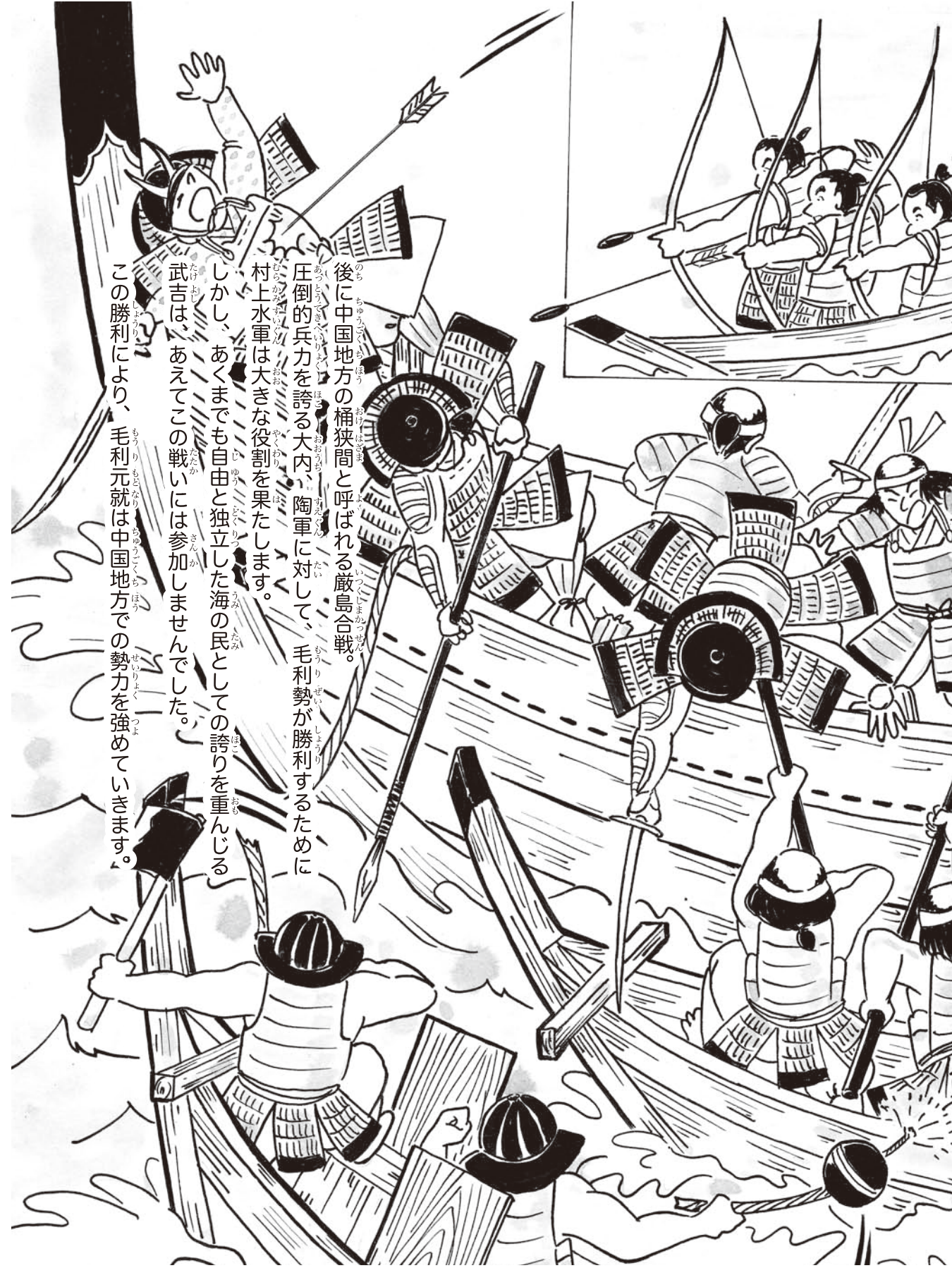
この頃には毛利家は西日本一の大名となっていた。

永禄2年(1559) 大友義鎮が毛利領の門司城を攻撃。

永禄3年(1560) 桶狭間の戦い織田信長と今川義元が桶狭間で戦い、今川軍が敗退

戦国末期、歴史が大きく動き、武吉たちもその中に巻き込まれていきます。

※主な戦場



武吉め、裏切りおったな!!

この勝利により、毛利元就は中国地方での勢力を強めていきます。

しかし、あくまでも自由と独立した海の民としての誇りを重んじる武吉は、あえてこの戦いには参加しませんでした。

後に中国地方の桶狭間と呼ばれる厳島合戦。圧倒的兵力を誇る大内、陶軍に対して、毛利勢が勝利するために村上水軍は大きな役割を果たします。



永禄4年(1561)

武吉殿、大友と戦っていただく時がまいました。

9月初め 下関に向かった武吉は、下関の近くの海に軍船を並べ、大友水軍を領海へ入れなかった。

小早川隆景 おや、西風が強くなってきたぞ

風はますます激しくなり、波も高くなってきました。

外海の海岸沿いに 大友水軍が夜襲をかけた。

よし！ 五つ半が来たら小早だけで全力でこぎ進め!! 大友船団に体当たりするぞ!! 宗勝殿にも急ぎ伝えよ!!

武吉殿!! 正気ですか

ついに来たか

これでは門司城へ攻め込めぬ

今、何時か!!

殿は頭がおかしくなられたのか?

この季節、この時刻、壇ノ浦の潮の流れがどう変わるかご存知でしょうか?

追いついてくる。

迫る大友

波の流れが変わった風も弱まった...

1185年、この壇ノ浦で源義経と平氏が戦った。独特な潮の流れを利用して、みごと源氏が海上戦の得意な平氏に勝利したんだよ。

追い風に乘って大友水軍が正面から矢のような速さで近づいてくる。

あとひと息だ!! こげやこげ

敵の間を一気に抜けるぞ!! それ、炮烙を、火桶を投げ込め!!





逆流する潮の流れ  
後方からの強風  
大友水軍の船は次々と  
ねじれて横倒しになった。  
大友水軍の大敗北



しかし大友も  
あきらめない。  
その後も何度となく  
進撃して  
くる。  
その  
度に  
武吉は、  
戦法を変えて反撃し、  
大友水軍を圧倒した。



水はじき舟  
火つけ舟  
熊手舟  
炮烙舟  
火桶舟  
火矢舟  
飛槍舟  
火鞆舟  
投げ槍舟など  
いろいろ  
あるでしょ



ヨ、日本一!!

全国に武吉の武功は知れ  
渡り、瀬戸内の水軍大将  
と呼ばれた。この水軍力を  
誰もが味方につけたいと  
思った。

先の戦で破れた大友氏も  
例外ではなかった。



殿、大友氏  
より書状が  
届きました。



我が大友軍に協力し  
てくれるなら、  
九州の海上  
交通の権利  
を与えても良い。  
大友宗麟



うーむ  
これは悪い話  
ではないぞ  
永禄12年(1569)  
毛利氏より  
大友攻めの  
出陣依頼がきました。



よし、今回わしは  
病氣じゃ。  
上関で待機する。



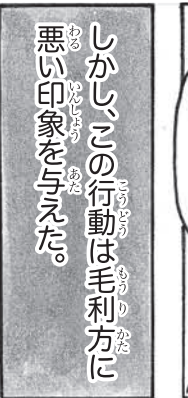
武吉殿は  
毛利様にそむいて  
どうするのだ!!  
予定通り出陣した来島勢は  
大打撃を受けた。



何を言う、  
我らは毛利にも  
ほかの誰の家来  
にもならぬ。  
一族存続のために  
自由に有利な方を  
選ぶのだ。  
元龜2年  
1571  
毛利元就没  
75才



この頃の武吉は、大友氏だけで  
なく、浦上氏や尼子氏  
など、近隣諸国の  
情報を集めて  
いた。  
村上水軍が  
生き残るため  
責任重大だね

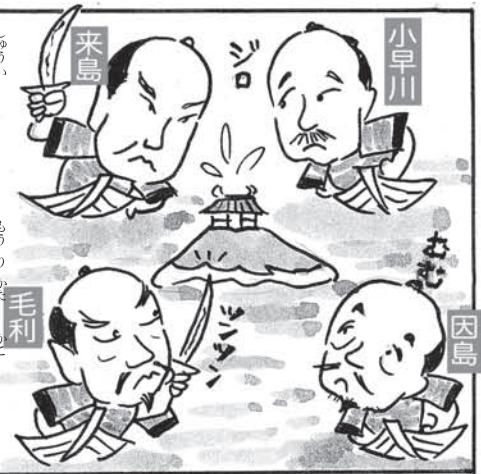


しかし、この行動は毛利方に  
悪い印象を与えた。



毛利輝元  
武吉は  
大友のスパイだ  
その方らに  
能島攻めを命ずる

元龜2年7月(1571)  
能島城が攻撃された。



小早川  
来島  
毛利  
因島  
周囲をグルリと毛利方に囲まれ、  
水や食糧も断たれ、武吉は降伏した。



生き残るの  
は大変ねえ  
そうだねえ



降参(や)や



織田信長  
天下取り  
じゃ



足利義昭を将軍に  
お飾りじゃ



信長の言いな  
りはイヤじゃ。  
誰か信長を  
倒してくれ  
信長のやり方  
はひどすぎる  
義昭が信長追討  
要請を出した。



わしに  
逆らう奴は  
殺して  
しまえー



殿、まもなく  
大坂出陣と  
なりませう



なーに、海から  
攻めれば石山  
本願寺に物資  
を入れること  
などたやすい  
こと。  
うむ、  
今回の戦は  
息子・元吉に  
まかせてみよ  
うぞ



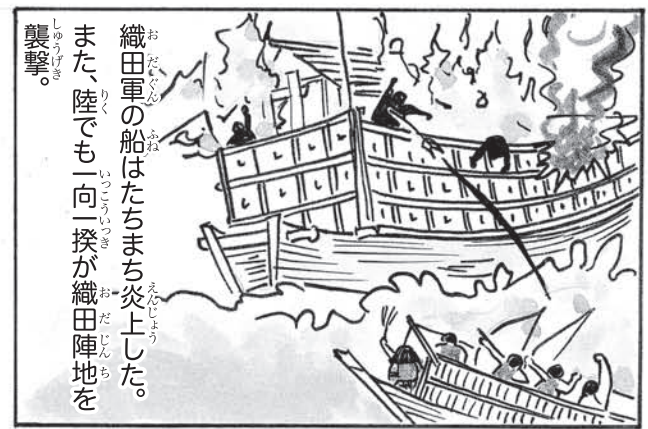
元吉26才  
おまかせ  
ください



撃て!!  
毛利軍の一斉射撃が始まった。



続いて村上水軍の  
一斉火矢・炮烙



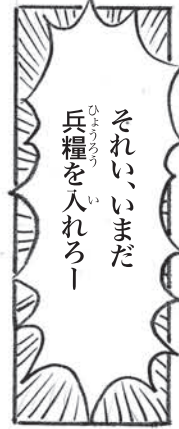
織田軍の船はたちまち炎上した。  
また、陸でも一向一揆が織田陣地を襲撃。



若殿は  
ご立派に  
なられました

元吉も

やりよるなあ



それい、いまだ  
兵糧を入れるー

村上水軍と秋山真之  
村上水軍の「長蛇の陣」  
という戦法がある。この  
縦長に連なった陣形は、  
どんな陣形にも変化し  
易く、敵を包囲するのに  
便利である。大正時代、  
日露戦争時に秋山真之  
がロシアバルチック艦隊  
を破った戦術は、こうし  
た村上水軍の戦術を参  
考にしたと言われている。  
日露戦争って  
なーに?  
ロシアと  
日本が  
戦ったのよ



なに、  
大敗した  
だー!

あまりの素早い動きに  
鉄砲で狙うことも  
できませんでした  
切腹覚悟の九鬼に

：何だ  
そのさまは…  
くやしいならば  
強い船を作れ!!

本願寺攻撃に海から物資を入  
れる村上水軍は邪魔であった。  
また、天下統一を目指す信長に  
は、瀬戸内海を支配する村上  
水軍が西日本制圧に実にご障  
りな存在であった。



よし!!  
今回の戦は  
わしが  
行くぞ



あの信長が  
でかしたぞと  
言うて  
誉めたそうな



九鬼め、鉄の舟を  
作ったらしい

鉄の舟が水に  
浮くかい。  
気でも狂うたか

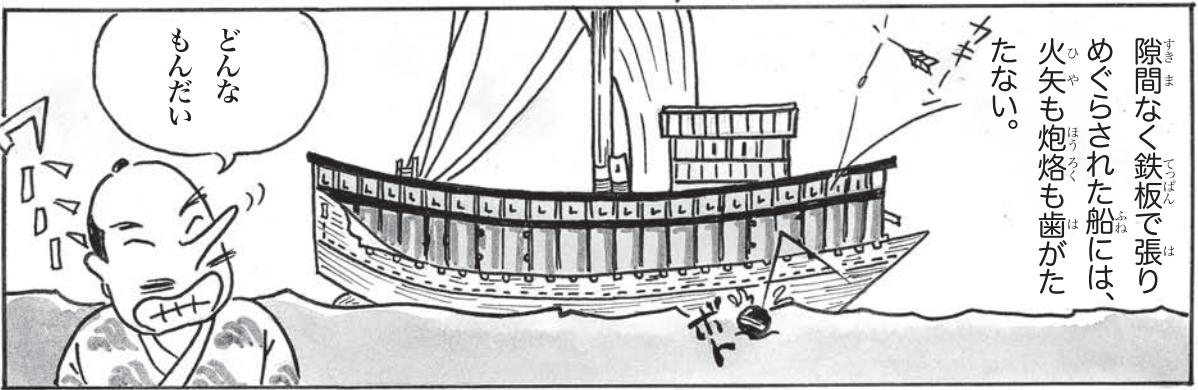
天正6年(1578)  
そんな噂が武吉の耳  
にも聞こえてきた。



鉄の黒船に迫った  
とこ  
思いがけないこと  
が起こった。

鉄の船が火を噴いた。  
大筒だ。

出陣じゃー



隙間なく鉄板で張り  
めぐらされた船には、  
火矢も炮烙も歯がた  
たない。

どんな  
もんだい



毛利軍敗北  
武吉も淡路島へ  
敗走した。

村上水軍  
恐るべし。  
我が軍の味方  
に欲しい

信長は勝ったのに  
どうして村上水軍  
を欲しがったの?

いかにして  
あの鉄舟を  
作ったのか

それはね、鉄舟は  
火には強いが、動きが  
のろい。

先々の海戦のために、  
小早のようすば  
やい動きをする水軍  
が欲しかったのです。



信長は、秀吉に命じて  
幾度となく村上水軍に  
誘いをかけてきた。



天正10年(1582)  
来島の通総が秀吉に寝返った



どうせわしは嫌われ者よ。  
河野家にいつまでも  
えらそうにさせて  
いられるか。  
父上の恨みも  
あるし、こは  
生き残りをかけて  
強い方に従うぞ。  
来島家は伊予守護河野氏と縁戚関係だった  
が、当時内紛があり、関係がよくなかった。



天正13年(1585)  
秀吉、四国攻め。秀吉の命に  
より通総が伊予に帰国。



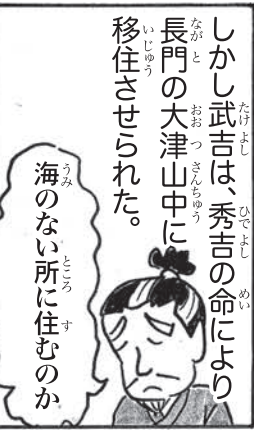
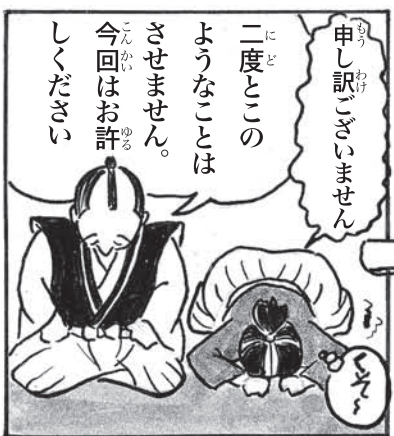
武吉は安芸竹原の  
鎮海山城へ移る



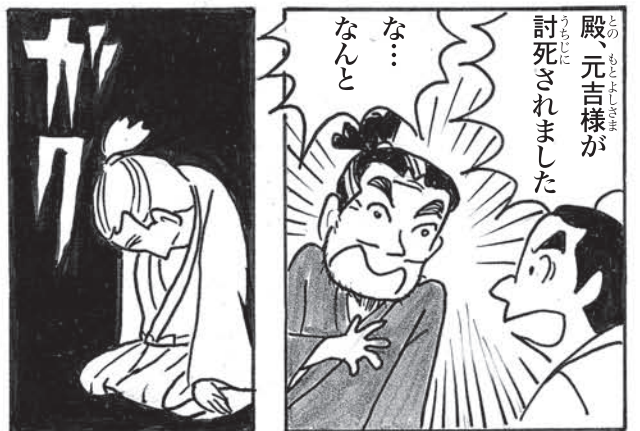
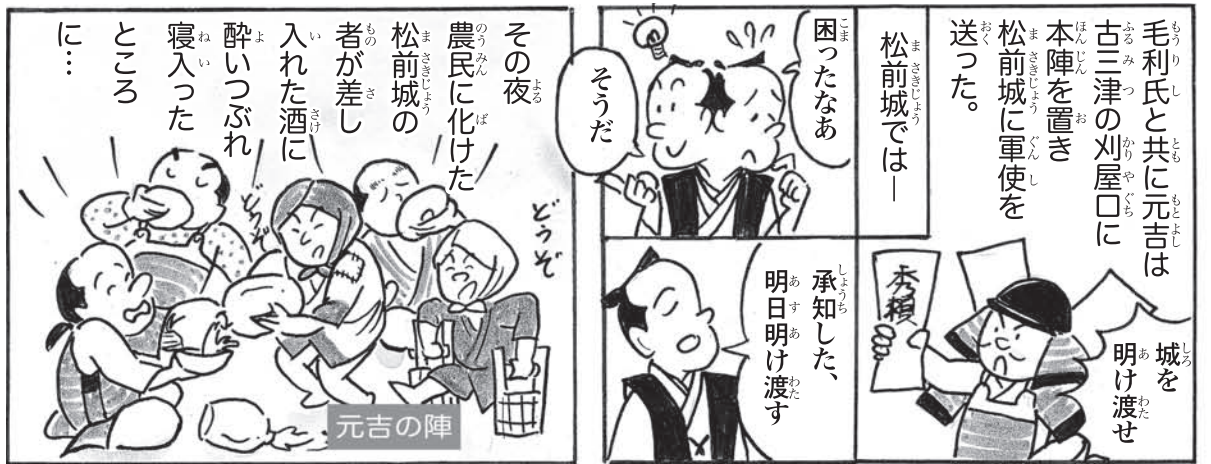
後に「コエリヨ神父は記している。  
日本国には二人の海賊  
大将軍がいる。  
能島殿と  
来島殿である。



天正16年(1588)  
海賊禁止令







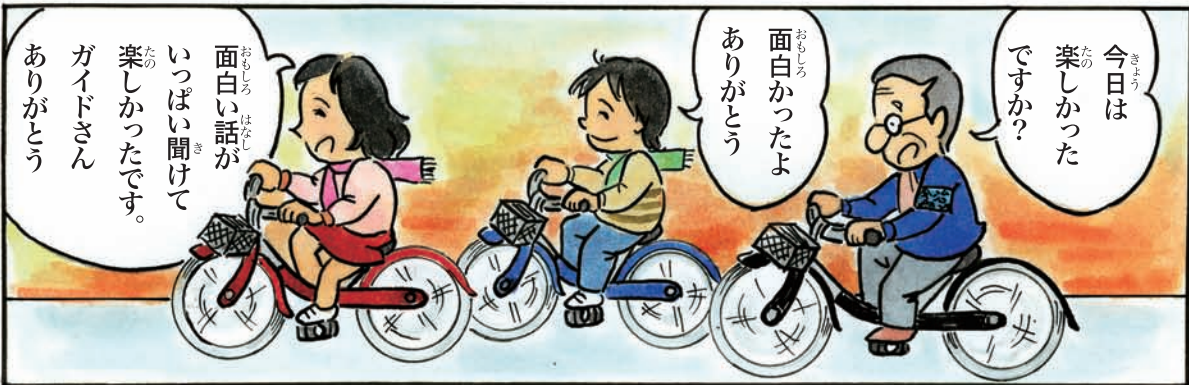
武吉の亡骸は周防大島内入、元正寺にある。  
武吉の墓を囲む塀の外に妻の墓がある。  
景親は元武を後見し、娘を嫁がせた。毛利家の助けを受けて毛利藩船手組の組頭を務めた。  
慶長15年(1610)  
景親没 53才  
父・武吉が旅立ってわずか6年後であった。

芸予諸島を主な本拠地として、中世の瀬戸内海を四〇〇年近くもの永い間、支配してきた村上水軍は、後生、今治で暮らす私たちに素晴らしい文化・習慣を沢山残してくれています。

この冊子は、歴史・文化・美しい景観の宝庫「瀬戸内海国立公園」の素晴らしさを、より多くの地元の子供たちに、体全体でふれ、楽しく感じてとってもらい、それがいずれば「瀬戸内海国立公園」を舞台とした「しまなみ海道」の全国発信に繋がることを願って作成しました。

子供たちに分かりやすいようにと、物語風に仕上げたために、史実と若干の相違があることをご容赦ください。

— 今治地方観光ボランティアガイドの会 —







海の戦国大名 - 村上武吉物語 -  
 発行 今治地方観光ボランティアガイドの会  
 監修 森 恒雄 / 香西 巧 (今治地方観光ボランティアガイドの会 会長)  
 編集 村上 太 漫画 井出 和美  
 参考資料提供 「村上水軍全史」/ 森本 繁・著 / 新人物往来社  
 別冊歴史読本「戦国水軍と村上一族」/ 新人物往来社  
 今治市村上水軍博物館 / 香川元太郎・画

- お問い合わせ(ガイド予約) -  
 (社) 今治地方国立公園協会  
 今治地方観光協会  
 〒794-0013  
 愛媛県今治市片原町1丁目2番地 今治港湾ビル3F  
 tel 0898-22-0909 fax 0898-22-0929  
 e-mail kankou@oideya.gr.jp  
 http://www.oideya.gr.jp/

# ようこそ、いまばいへ!!

